

# 神奈川県中学校軟式野球大会 2018年大会特別規定

## 【競技を行うにあたって】

1. 当該年度公認野球規則並びに当該年度（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携、及び本規定による。
2. 使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認球ナガセケンコーB号とする。
3. 使用器具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
4. 試合続行が不可能になった場合は、特別継続試合を採用する。ナイターで試合を行う場合もある。
5. 延長戦は9回までとし、それでも勝敗が決着しない場合はタイブレーク方式とし、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを決着がつくまで繰り返す。  
\*タイブレーク方式  
7回（9回）終了時の継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁、三塁、の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態として一イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様の規則によって認められる選手の交代は許される。
6. 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。
7. 用具・装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
8. 本大会では、施設使用上および安全面から、球場外でのスパイク着用を禁止する。
9. 選手の頭髪・身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。

## 【試合開始前】

10. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前または前試合4イニング終了時までには球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。ベンチは抽選番号の若い方を一塁側とする。  
（※ 試合前の練習については十分に注意しうえで実施し、到着時刻を厳守することとする）
11. 天候等の悪化が予想される場合または試合開始のための態勢が整っているときは、試合開始予定時刻前でも試合を開始することがある。なお、各球場の開門時間は、試合開始予定時刻の1時間30分前とする。練習はベンチ前および外野に限り行うことができるが、スパイクの使用を禁止する。また、危険防止のためトスバッティングを含めたバッティング練習は一切禁止とする。練習に参加できるのは、登録選手のみとし、補助員は練習に参加できない。登録選手は、試合用ユニフォームで行う。ただし、バント練習は可。
12. メンバー用紙交換及び攻守決定は、第1試合は試合開始予定時刻の40分前、第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は指定されたメンバー用紙（5枚）を持参し、競技部担当役員と担当審判員とで攻守決定、注意事項の確認を行う。
13. ダブルゲームの場合、ゲーム終了後から次の試合開始までを40分とし、その開始時刻の20分前をメンバー交換とする。開始時刻の決定は大会本部が行い連絡する。
14. 第2試合以降は試合開始時刻前でも、前の試合が終了した後30分を目安に次の試合を開始する。
15. シートノックについては以下の通りとする。
  - （1）試合当日の試合前のみとし、前の試合終了後準備が整い次第行う。
  - （2）時間は、通告時より7分以内とし、状況によっては短縮または省略することもある。
  - （3）後攻のチームが先に行う。
  - （4）監督・コーチ・登録選手の他に5名の補助員をつけて行うことができる。ただし、補助員は自校のユニフォーム（白無地可）およびヘルメットを着用すること。
  - （5）マウンド及び周辺は使用しない。
16. 前の試合が終了次第、挨拶終了後にグラウンドに入り、外野側ベンチ横に用具を置きキャッチボールや素振り、準備運動を行ってもよい。なお、シートノックが開始された際は、ベンチ内で待機する。

## 【試合中】

17. 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。
18. 規則適用上の質問の申し出ができるのは、監督と当該選手とする。この場合は要旨を端的に述べ試合進行や大会運営に支障をきたさぬよう留意すること。
19. ベンチ内でのメガホン使用は、監督に限る。
20. 投手について
  - (1) 規則 5.10d【原注】〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は本大会では適用しない。
  - (2) 投手の投球制限について、「投手の投球制限については、1日7イニングまでとする。」は本大会では適用しない。
21. 投手の準備投球は、初回と交代時7球以内・他3球以内とする。ただし、状況により審判の判断で考慮することもある。(1分以内が目安)
22. 突発事故が起きて臨時代走を用いたい場合は、監督が球審に申し出る。審判団が必要と認めた場合は許可する。
23. 試合中のグラウンドでは、打席に入る打者と次打者席内の者以外は素振りなどをしてはいけない。
24. 本塁打を打った打者走者にランナーコーチが握手を求めたり、ベンチにいる選手が握手を求めするためにグラウンドに出るはいけない。
25. ブルペンでの投球練習は、攻守決定後、大会役員の誘導で先発バッテリーのみ行うことができる。室内練習場がある場合には、それを待たなくても練習ができる。
26. 危険防止のため、次のことを徹底する。
  - (1) マスコットバット・バットリング・鉄棒等を球場に持ち込むことを禁止する。
  - (2) 捕手はレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード付きのマスク・ファウルカップを着用する。投球練習を受ける控えの捕手についても同様とする。
  - (3) リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
  - (4) ネクストバッタースサークルでは、次打者はスタンディングで待つが良いが、イニングのプレイ中、投手に合わせてスイングをしない。  
ただし、会場によっては安全に配慮した形で対応し、その大会本部の指示に従う。
27. 試合進行や大会運営の円滑化のため次のことに留意する。
  - (1) 無用なタイムをとることを慎む。
  - (2) 攻守交代は全力疾走で行う。
  - (3) 守備のボール回しは定位置付近で行う。試合進行上禁止することがある。
  - (4) 先頭打者とランナーコーチ(選手のみ)は、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
  - (5) 投手の準備投球中やタイム中などに、打者・次打者以外の選手の素振りは認めない。
28. タイムについて
  - (1) 守備側・攻撃側・監督が投手のところへ行けるタイムの回数制限は、それぞれ1試合に3回以内とする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回とする。
  - (2) 守備側のタイム中に、攻撃に関する指示を監督がベンチを出て(または、選手を集めて)行った場合は、守備側のタイムと攻撃側のタイムの双方1度として数える。
  - (3) 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで支持を与える状態を示す。伝令を使うか、捕手またはほかの野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファウルラインを超えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
29. 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意し、球を投手に戻させる。

30. ファウルボールは、すべて係員が回収を行う。

### 【試合後】

31. 各チームの監督は、試合終了後 30 分以内に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うこと。

32. 試合終了（校歌斉唱終了）の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席へのあいさつは認める。

### 【その他】

33. 露出する部分にテーピングを使用する場合には、試合前（メンバー交換時）に主催者・審判員に申し出て許可を得たものの使用を認めることとする。ただし、色は肌の色に近いものとし、ホワイトまたはブラック・ベージュなどの一色とする。なお、負傷で手首に包帯等を巻く必要があるときは、大会本部の承認が必要である。

34. 応援団は次の事を守って応援すること。なお、応援団については監督が責任をもって指導すること。  
(1) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。

(2) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことを禁止する。

(3) 応援席を散らかさない。ゴミは持ち帰り、美化に心がける。

(4) 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。

(5) スタンドや客席にテントやパラソルを張ることを禁止する。

35. チームの参加人数については次の通りとする。

(1) 1チーム9名からの参加を認める。

(2) 1チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手21名以内（スコアラーを含む）とする。この他に教員、又は、外部指導者を2名まで追加する事ができるとし、計24名以内とする。ただし、校長（管理職）はこれ以外にベンチに入ることができる。

36. 監督・コーチ（外部コーチ）等の服装等については次の通りとする。

(1) 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番の背番号を、コーチは28番または29番の背番号をつける。なお、外部指導者登録をしているコーチは28番または29番とする。選手と同じ色のスパイク（アップシューズも可とする）を履くこと。

(2) その他に教員がベンチに入る場合は平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツ）に選手と同一の帽子とする。ただし、女性の場合は考慮する。

(3) サングラスは使用しない。ただし、中学校会場、医療目的は使用を認める。

37. 選手の服装等については、次の通りとする。

(1) 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が1番～20番の続き番号であること。

(2) 手袋については白または黒一色のものとする。リストガードは禁止する。

(3) 選手のスパイクは黒一色とする。

(4) サングラスの着用は、天候状態などによりプレイに支障が出る場合、試合前（メンバー交換時）に主催者・審判員に申し出て許可を得た物の使用を認めることとする。メガネ枠は黒、紺またはグレーなどとし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。グラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。ただし、会場によっては全面禁止の（医療目的除く）といわれる可能性がある。

38. 試合のスピードアップ・マナーアップ・フェアプレイについては、各チームで責任を持って指導すること。

# 特別継続試合について

	1	2	3	4	5	6	7
A	0	0	1	0			
B	0	2	0				

2 OUT 2 塁時 雨

5回まで行えていないので  
特別継続試合  
4 裏 Bチームの2 OUT 2 塁から

	1	2	3	4	5	6	7
A	0	0	0	1	0	4	
B	2	1	0	0	0		

2 OUT 2 塁時 雨

均等回まで戻り 1-3 により  
Bの勝ち

	1	2	3	4	5	6	7
A	0	0	0	1	0	4	1
B	2	1	0	0	0	2	

2 OUT 2 塁時 雨

均等回まで戻り 5-5 により  
特別継続試合  
7回裏 A6 - 5B  
2 OUT 2 塁から